

space



Aブロック全作品と講評

www.columnland.net

私たちの心にはいつもちよつとだけの余白が必要だ

We need space in our mind.

2001年宇宙の旅

人類が地球に住めなくなってから一万七千年間、人類は、地球での失敗を生かし、月で安定した暮らしを送っていた。

人類が、月へ移住し約一万六千年がたったときのこと、ティコクレーターの探掘中、直方体の黒い岩が発掘される。人々は、その岩を「モノリス」と呼び、研究の結果、今まで観測されていなかった強い磁場が、発生していることが判明する。この研究のため、磁場の行方を求め3人の研究者が

AKI4800 型 (Astronautically knowledgeable Intelligence) と呼ばれる人類の英知を集約したスーパーコンピュータの搭載された宇宙船に乗り込み宇宙へと出発する。

宇宙は、西暦 18000 年代の大異変により、急速に収縮し、宇宙の果てが、太陽系から数千光年のところまできたところで、その運動は止まっていた。

宇宙飛行士たちは、冬眠カプセルでの数千年間の仮死状態ののち、AKIの機能によって冬眠から目覚めた。宇宙飛行士たちは、AKIの示す座標をみて身震いを起こす。そこは、宇宙の果てから1光年も離れていないところで、宇宙船は、さらに、宇宙の果てに向けて直進していたからだ。宇宙飛行士たちをおこしAKIは、これ以上の、航行してはいけないうと、飛行士たちに向けていった。宇宙の果ては、いまだ、人類の知らないものであり、人々は、宇宙の果てを、「The Space」と読んでいる。

その後も、宇宙船は、宇宙の果て（周りは、完全に暗黒であったため肉眼では見えないが）を目指していた。三人の頭の中には、宇宙から出て人も生きていけるかという恐怖を抱く反面、研究者としての未知へのあこがれ

があり、AKIの制止を振り切るため、AKIを停止させ、航行を続けた。宇宙船は、刻一刻と宇宙の果てに近づく・・・

三人の頭の中には、何万年も前の哲学者ニーチェが『ツアラトウストラかく語りき』の中で言った「多くのことを中途半端に知るよりは何も知らないほうがいい。他人の見解に便乗して賢者になるくらいなら、むしろ自力だけに頼る愚者であるほうがまだ。」という言葉が繰り返されていた。

モノリスから発せられていた強い磁場は、やはり、宇宙の外へと向かっていった。三人は、この磁場が、いつだれが何のためにつくったのかという答えのわかりやうのない疑問を抱きながら、宇宙の果てを超えていく。

宇宙を超える時、周りは完全に闇であつたため、三人はレーダーと座標を示す機器のみに頼っていた。

境界を越えた直後、何も変化が見られなかった。しかし、The Spaceにある物質は何であるか、どんなエネルギーが、存在するのか、宇宙とは何が違うのか、ということを知りたがまま宇宙に帰ることはできない。そこで、研究用のコンテナを開き、そして閉め、解析を進めた。しかし、少なくとも宇宙に存在するような物質やエネルギーはなく、いかなるものも見えなかった。そのため、三人は、やむなく宇宙に戻り研究を進めることに決めた。

The Spaceと宇宙の境界を超える時、それは起きた。研究用コンテナから、強いエネルギーが観測された瞬間、三人は、The Spaceへと、放り出されていた。放り出された瞬間、三人には、一つだけわかったことがあつた。

The Spaceには少なくとももう一つの宇宙が存在していたことを・・・

宇宙船とロケットRU

宇宙は……そう、SPACE 夢だ。

人間はいろいろ 生き物だ。確実に

シャシャッと歩いている。

いいじゃないか。

世界が1つになって

壁をブラックホール

開け 描け る すいみらいへ！

無限のうちゅう

「ここにはね、なんでも入るんだよ」

そう言つて彼は自分の頭を指差した。

「この中には幸せな世界も入っているし、地獄のような世界も入っている。どんなものを入れるかは自由なんだ。」

不意に彼は悲しそうな顔をした。

「でも、なんでも思い通りに入るわけじゃない。何かが無理やり入ってしまうこともあるんだ。そんな時こそ思い出してね。この中にはなんでも入るってことを。」

そう言つて、また彼は頭を指差して笑つた。

彼がいなくなつてから自暴自棄になつた。

彼の言葉を反芻してみる。

今、私の頭の中は悲しみでいっぱいだ。

彼の言葉を思い出してみる。

：：うん。私の頭の中は私の自由だ。

彼の言葉を理解してみる。

：：そうだ、悲しみだけで埋めないで、もつと沢山のものを入れよう。

彼との思い出が思い出された。懐かしかった。

悲しんでばかりいても何にもならない。

彼との思い出を入れよう。これからのことを考えてみよう。

急に目の前が明るくなつた気がした。

彼は素敵な言葉を残してくれた。

そう、私の脳の中は私の自由だ。

「私、火星にお引越しすることになったの」

——2116年・夏

彼女は突然そう言って引越してしまった。本当は引越したのは春休みだったんだけど、子供だった僕には衝撃が大きかったのか、その間の記憶があんまりない。

僕と彼女は幼馴染で、ずっと二人で一緒に遊んだりしていたから、友達にからかわれることもあったけど、別になんてならなかった。そのころ僕たちはこれからも一緒に生きていくんだろうなって真剣に考えていた。

——2118年・秋

彼女が引越してから最初の連絡がきたのは、僕が中学生になって最初の夏が過ぎたころだった。

僕は難しい話がよく分からないけど、地球と火星で連絡が取れるのは二つの惑星が接近するとき——すなわち、二年に一度だ。しかも当時は、電話とかじゃなくてメールみたいなもので、絵文字すら使えなかった。

それでも僕にとっては楽しみなもので、火星にある標高二万メートル以上もある山に行ったとか、大気の成分が違つてちよつと息苦しいとか、いろいろな内容が書かれていた。

二年に一度でも我慢できたのは、きっと大人になればまた一緒に暮らせると思つていたからだろう。

宇宙空間に よ つ て 引 き 裂 か れ た 二 人 の 思 い

——2131年・夏

一か月前、15年に一度の火星大接近の時に彼女が地球へ帰つてきた。それから二人での暮らしが始まった。しかしその暮らしも長くは続かなかった。夜、二人でテレビを見ていると、突然画面が変わり臨時ニュースが始まった。

「火星に一年以上住んでいた方は、すぐに火星に帰つて下さい、繰り返します：」

のちにそれは火星の大気に慣れた人が地球では暮らせないからだとかわかったが、その時の僕らは何も分からないまま、次の日に別れることになった。

「もう行かなくっちゃ」

「うん」

「もう会えないかもね」

「うん」

空港での最後の会話でも、僕はただうなづくことしかできなかった。

——2131年・冬

あれから二年がたった。今はもういつでも惑星間電話ができるけど彼女からの連絡は来ないし、僕もしてない。

僕たちの間には、宇宙という名の大きな空間が横たわっている。それは実際よりもっと広い空間として、僕らを引き放している。

それでも僕は構わない。でも、せめて、あの時言えなかった「愛してる」って気持ち、それが彼女に届いてくれればいいのに。

最後の手記【空白の自分】

恥の多い人生を送ってきました。

リア充に囲まれていると、自分はまるでまっ白なキャンバスの上にあやまつて落ちてしまった黒いシミのようであるのです。

彼らはいかに部活が楽しいか、カノジョと過ごす時にどれだけの価値があるかということをいちいち説明してくれるのですが、自分にはちいともわからないのです。

そんな彼らと同じものを楽しみ、悲しみ、喜び、憎しみ、青春を謳歌する感覚を共有できない惨めな黒点^{ヨタク}にできることは自分に白い粉をまぶし、点一つない地続きのキャンバスのフリをすることだけでした。

こうして今も自分は全身におしろいをぬりたくり、道化を演じ続けています。

生まれてきて、ごめんなさい。

牛乳戦争

あそこのスペースさえ取れば後はこうしてああして・・・
フッフッフこれでこいつに勝って・・・

気づくなよ・・・ほらさつさとどつか置けよ

何でこいつは打たないんだ？　今まで俺が打った瞬間に打ってたじゃないか

まさか気づいたのか？　いやそんなはずはない。こいつは正真正銘のバカだ。この前のテストではおれの半分しか取れなかったからな

早く、早く他の所に置けよ

ふはははは・・・バカめ、そんな所に置きやがって　さくてここに置いて
よし、これであと二手でおれの勝ちだ

王手

はっ？　今何て言った？　王手？

ありえんありえんありえん・・・おれがテスト10点のあいつに負けるわけがない・・・
なにかのまちがいだ

明日からお前おれの分の牛乳飲めよ

だれがあんな牛から出た白い分泌物飲むかよ

(酪農家のみなさんすみません)

―いやー本日もすばらしい試合でしたねえ。

「そうですね、チーム一丸となってプレイしてこのようなすばらしい結果が得られました。チームのみんなには感謝しています。」

―相変わらずのすばらしいコンビネーションでした。このように団結できたのは、何がよかったからだと思いますか。

「そうですね、メンバー一人一人の能力は非常に高いので、自分みんなの努力が結果につながるよううまくまとめることに徹しました。ポジション上、自分がミスをしてしまうと皆の努力が水の泡になってしまうのでそれとはとても注意しましたね。」

―そうでしたか。本日はチーム全員がすばらしい活躍でしたが、ご自身も大活躍の打数でしたね。

「そうですね、普段はそんなに多くないんですが、今日はいくつか難しい場面もあって、そのときは本当に死ぬ気がんばりましたね。どうするのが正解なのかわからなくて勘でいったのも何回ありましたが、結果うまくいったみたいでよかったです。」

―途中ミスしそうな場面もありましたが、どのような心境でしたか。

「そうですねえ、あのときは焦りましたよ。つい気が緩んでしまって、見当外れな判断をしてしまいそうになってました。でお大きなミスにつながらなくてホッとしています。」

―長い激闘を終えて、あんなに元気だった監督も疲れきった表情をしていますか。

「そうですね、試合中の監督の集中力はすごかったですよ。テキパキとすごい速さで自分たちに指示を与えてくれていました。それでいて手元は一切見てなくて、戦況だけをずっと集中して分析していたみたいなんです。それにしても疲れきった表情ですね（笑）」

―それでは、皆さんに一言、おねがいします。

「えー、今後がんばっていきますので、どうか暖かく僕たちの活躍を見守ってください。」

―ありがとうございます。本日はお疲れさまでした。

「ありがとうございました。」

―エー、以上、本日のヒーローインタビュー、キー・スペースさんでした。

おなか

私が子宮筋腫なる言葉を耳にした時、窓の外では竿竹屋がいつもと変わらない平和な声で商売をしていた。街は普段通りの時間の中で、私と夫だけが非日常に飲み込まれていた。産婦人科の先生はつづけて言う。子宮筋腫は良性の腫瘍です、命に別状はありません、ですがここまで大きく育ってしまったら薬物治療では難しく、手術は子宮ごと取り除くことになるでしょう。

子宮に筋腫ができることは別に稀なことではなく。40歳から60歳位の間で発症する人が多い。初期段階では何の問題もなく、子供を産むことにも支障はない、らしい。けど私は32歳の誕生日を2カ月過ぎたばかりで、やたら生理の具合が良くないからついに妊娠か、と二人でわくわくした日だったのにな。

MRIには赤ちゃんの代わりに12cm程の腫瘍が写りだされた。

もっと早く気づけたはずだった。腰痛。眩暈。そして出血。全てが筋腫のサインと知ったのもこの日だった。夫は私のせいじゃないという。私はそれを受け入れられない。私はそれを受け入れない。子宮全摘するまでの3ヶ月間、私はよく泣いた。ずっと泣いた。

手術が終わった後、私は私の中にいた筋腫を見せてもらった。2時間前はおなかの中にいた筋腫。今は白いゴムボールに見える筋腫。

611gやせた私のおなかの中はいったいどうなっているのだろうか？今までいた筋腫のスペース分、綿でも詰めてもらえばよかったかな。そうすればおなかの上下に揺さぶられなさそうだしね。そんなしょうもないことを麻酔あけの頭で考え始めていたら、やがて銀のトレイに乗せられたまま筋腫は運ばれていった。どこに行くのかな。

さよなら、私の子宮。君のいた空間はもう閉じられてしまったんだね。今まで持ち得なかった新しい気持ち私のおなかを駆け巡る、3月も終わりの夕方。窓の外では竿竹屋がいつもと変わらない平和な声で商売をしていた。私たちも日常に戻り始めよう。私はもう泣かない。

毎年誕生日に思うことがある。

僕はどのようにして、この世に生を受けたのか。

生物学的に起こったことは、生物の時間に聞いて知っている。

そういうことじゃなくて、どうして“僕”であるのか、ということ。

親の教育の仕方とか、環境とか、後天的要因によっても性格は左右されるらしいけれど、双子だって性格が違っただから、先天的要因もあるはずだ。

いつから、僕は“僕”のだったのか。

細胞分裂を始めた瞬間とか？

心臓が脈打ち始めた瞬間とか？

もしかしたら、親が出会った瞬間からかもしれないな、なんて。

それに、生まれた僕が“僕”であった理由は何だろうか。

僕と全く同じ時間に生まれた子どもは他にも沢山いるだろう。

だから僕がこの両親のもとに生まれたのには、きっと理由があるんじゃないか。

うーん…

そうして、今年も僕はスペースキーを押すんだ。

一マス空けて、まだ答えは取っておくことにする。

とのあえず、保留って事で。

いつだかに見つける答えが、きっと幸せであることを願いながら。

『十九個目の空欄』

文系彼女 と 理系彼女

「お、今度映画見に行かない？ 気になっているのがあるんだ。」
「全然構わないよ。いったいどんな映画なんだい？」

「最近恋愛もののばかり見ていたからお、今度ファンタジー映画よ。あらあじは、いじめにあつていた少年が学校を抜け出し、近くの森へ逃げ込んだらそこで洞窟を発見してお、なんとその先が地球とは別の世界に繋がっていたんだって。そこは魔法世界なんだけど、そこでの出会いを通じて少年がどんどん成長していくの。そして少年がその世界を救うことになるっていうハートフルなファンタジーストーリー。魔法っていいわお。あたしもうちやな頃は魔法使いになりたいくて、おもちゃのステッキとか振り回してたわ。どうかな、ストーリーとかも面白そうでしょ？」

「おお、それは面白そうだ。設定としてはワームホールだよ。その魔法世界は銀河系のどこかにある惑星と考えるのが妥当かな。アインシュタインが提唱した3つのホールのうち、存在が立証されているのはブラックホールだけど、やっぱりワームホールも存在すると思うんだ。あつ、もちろんホワイトホールもね。そもそもブラックホールはその巨大な質量故に…」

（スペースの都合上、割愛させていただきます）

だからワームホールは存在しなくてはならないと思うんだ。まあ映画の設定としてワームホールを想定したものは過去にいくつもあつて、そういう意味では陳腐かもしれないね。でもやっぱり宇宙に関係するようなSFは男心をくすぐるよなあ…。まあ、あらすじを聞く限り、宇宙ってワードはまったく出てこないけど。だが、それがいい。あつ、もちろん魔法にも興味はあるよ。例えば冷気を扱う魔法を考えてみよう。エントロピーを考えてみると、冷気を操るには、どうしても熱を…」

（やはりスペースが足りないのでも割愛させていただきます）

そう考えると実現は難しいかもね。でも、頭ごなしに否定するのは良くないよなあ。うーん、あつ、脳だ。脳科学の観点から考えるのを忘れていたな。脳でイメージしたことを実世界に投影できるならば十分魔法も可能になるかな。普段人が使用している脳の割合は1割程度という説もあるしね。とある科学の…

（スペースが以下略）

脳科学はまだ解明されていない部分が多いんだよね。そう考えてみると、魔法も不可能ではないのかも。映画の魔法がどのようなものかは実際に見てみないとわからないけど、魔法もいろいろ考えてみると実に面白いものだね。そう思わないかい？」

「…うん、ソーダネー。」

最後の涙と笑顔

「大好きだったよ

さようなら」

その空白に、君は何を想っただろう

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	無題（私たちの心には）	7 pt	7 位	1 sp
		ささやかな主張なので、レイアウトもさりげなく。とても奥ゆかしいたたずまいの今週の表紙です。 特別賞：名言賞 イチオシフレーズ：「私たちの心にはいつもちょっとだけの余白が必要だ」×2		
A02	20001年宇宙の旅	1 pt	11 位	0 sp
		宇宙空間の孤独な航行のプロセスの緻密な描写が「はやぶさ」を思い起こさせてくれます。元ネタの「2001年」を踏まえつつ、HALをAKIに変えたり、遊び心も楽しい仕上がりでした。 アナザーワールド、もう戻ってこれないのでしょうか、この3人さん。		
A03	宇宙船とロケットRU	0 pt	12 位	3 sp
		わかりませーん。 クイズだよって作者さんのメッセージが裏にあったので、TAさんたち総がかりで知恵をしぼったのですが。が。が。 フロアもお手上げでしたね。作者さーん、ワンテッド！ 特別賞：???賞（愛を込めて）よく分からなかったで賞（スペースの意味が……。解読できなかった。） なぞだ賞（最後の1行がなぞでした。） イチオシフレーズ：「いいじゃないか。」「すいみらいへ！」		
A04	無限のうちゅう	4 pt	8 位	0 sp
		動詞ひとつで輝いている作品だなあ、と読みました。 頭に何かを「入れる」という表現が、人のポジティブさをしっかり体現してくれて、そうか入れるものを決めるのは私自身なんだ！と、今の悲しみを乗り越えよう気分になれます。 イチオシフレーズ：「ここには、なんでも入るんだよ」		
A05	spaceIによって引き裂かれた二人の思い	10 pt	4 位	0 sp
		めぐりあって、また別れゆく宇宙サイズのストーリー。通信が途切れがちのほうか熱かったなんて、まさに王道の展開。 あっさりした別れ方が、宇宙空間の広大さによく似合ってますね。どこかの交差点で遭ってしまっ気まずい、なんてことがないし。		
		9 pt	5 位	2 sp
		あ、オレもオレもとカミングアウトが続出しそうな、とても共感を誘いやすい、むしろ狙いすぎかなと思えてしまうくらいの、すっと入ってくる告白トークでし		

A06	最後の手記【空白の自分】	た。 ラストの決めセリフがあざやかにクリーン・ヒット、今週のイチオシフレーズ大賞です。おめでとう！ 特別賞：顔が見たいで賞（作者のコメントが聞きたかったから。） 書体賞（字がいい） イチオシフレーズ：「生まれてきて、ごめんなさい。」×4
A07	牛乳戦争	3 pt 10 位 1 sp 将棋でしょうか。負けるまでの心中トークの毒っぷり（テストの点で相手を評価しちゃう）が、戦闘モードなんだと実感できて楽しかったです。 牛乳、おいしいのに。 特別賞：共感できなかったで賞（押しつけあわずに牛乳飲もうよ!）
A08	無題（ヒーローインタビュー）	18 pt 1 位 1 sp spaceキーに語らせるというアイディアは、今回とても多かったのですが、野球のヒーローインタビュー仕立てにしたところが勝因ですね。 単体での愚痴トークや自慢話にせず、チームとして仕事をしているのだ、というコンセプトに持って行ったところが、まさにキーたちの実態とシンクロして、すんと腑に落ちるつくりでした。おめでとう監督さん、みんなの力でゴールド・メダルです!!! それにしても、タイトルほしいなあ。（タイトルにこだわろう運動推進中） 特別賞：ミスリード賞（キー・スペース・さんかけー。）
A09	おなか	4 pt 8 位 1 sp シリアスな話を当事者視点で、これほどに入り込んで描ききった調査力と筆力にブラボーです。 竿竹屋の声に乗せて、重たくなりすぎない運びにしたのも、いい選択だったと思います。 タイトルもお題とシンクロしてみごとですね。（タイトルにこだわろう運動推進中） 特別賞：重賞（重い、暗い、辛い） イチオシフレーズ：「6 1 1 g」
A10	十九個目の空欄	14 pt 2 位 0 sp 一つずつ年を重ねて、でも答えは空欄のまま。 いつから僕は僕なんだと、始原にまで戻って考えたスタンスと、ポジティブな終わり方が好印象です。 ネタでもドラマでもない、こうした地道なつづやきをしっかり押し上げたフロアの眼力もさすがですね。おめでとうシルバー・メダル!! イチオシフレーズ：「もしかしたら、親が出会った瞬間からかもしれないな、なんて。」
A11	文系彼女と理系彼氏	11 pt 3 位 5 sp コレダカラ理系ノ男ハ…… つつい突っ走ってしまう勢いが、じつに巧みに再現されて、そこにもお題があしらわれ。ワザ師だなあ。 久しぶりに帰ってきた本選、おめでとうブロンズ・メダル！ 特別賞：原因と結果賞（12とセットでつながり方が面白かった。） 別に文系（理系）じゃないで賞（理系

		じゃなくてオタクなだけじゃん（笑） 勝田で賞（理系男子ウザイ）文章をよくがんばったで賞 残念な理系で賞（同じ理系として残念に思うから。） イチオシフレーズ：「以下略」「…ウン、ソーダネー。」
A12	最後の涙と笑顔	9 pt5 位2 sp 君は何を想う？そして、読者さんは何を思ったでしょうか。 設定にもキャラクターにも想像の余地が大きな裏表紙でした。 特別賞：班長賞（泣ける）原因と結果賞（11とセットでつながり方が面白かった。） イチオシフレーズ：「さようなら」「大好きだったよさようなら」

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	三十三人目の住人	11 pt3 位0 sp 何だろうなあとはらはら読み進めていって、あ、親知らずだっとラストで分かって、はらりと謎が解けてうれしい。ナイスミスリードな今週の表紙でした。 タイトルもしゃれてますね。（タイトルにこだわろう運動推進中） イチオシフレーズ：「今日でこことはお別れ」（切ない!!）		
B02	第2章 ビー玉の輝き	10 pt4 位2 sp 小さな偶然から、まさかの宇宙人連想へ。とても自然な流れで、風の又三郎を思い出しました。エピソード（宇宙人スピーチ）の入れ方、アイテム（ビー玉）の使い方、そして子ども世界の無邪気と見せかけた「毒」、うまいなあ。感嘆。 それにしても、タイトルの見せ方がおしゃれですね。（タイトルにこだわろう運動推進中） 特別賞：B-2が第2賞（TAさんの工夫が輝く）第2賞（どこに1章あったの？）		
B03	居場所	2 pt10 位4 sp のび太君、見方を変えれば、こんなブラック・ヴァージョンに。 なんで？問いとして投げかけることで、ちょっと読者参加型にした工夫がいい。お返事がこれだけ特別賞で返ってきましたよ。 特別賞：自立しま賞（スーパー非行少年から脱してもらいたいから）のび太賞 非行で賞 非行少年ノビタ（笑）賞（スーパー非行少年（笑））		
B04	人生はチョコレートの箱のようなものだ	15 pt2 位0 sp チョコレートボックスの魅惑。人生のじょうずな楽しみ方をかっちりしたレイアウトにおさめて伝授。すてきなメッセージつきギフトでした。 #ホントは絵は禁止なのですが、まあレギュラーさんだし、フレーズたちがキラキラすてきだから、セーフということで。 マイク第一声が「ヤンデレです」なんて、そんなお茶目なお嬢さんへの夏のギフトはシルバー・メダルです、おめでとう！		

		イチオシフレーズ：「Life is like a box of chocolate」 「人生はチョコレートの箱のようなものだ」
B05	いっつまいす ペーす	3 pt 8 位 0 sp 理屈っぽくて、でも意味不明な説得ぶりがユーモラス。 高校生あたりがやっついていそうな。 このあと彼は、どんな手で攻めるのでしょうか。想像を 誘います。
B06	僕の中のspace	0 pt 12 位 0 sp 脳内自分に怒られる。その叱咤のされかたが、とてもフ レンドリーで、特にラストの「頼む」に至るくだりが、 必死さがひしひし。 自分なんだけど、刻々と消えゆく自分からのメッセー ジ。なんか励まされますよね。
B07	テニスサークル	3 pt 8 位 5 sp さんばいじゃダメなんですか?? それは仕分けしてもらったほうがいいサークルかも。 サークル活動は青空のもとで健康的に！ by文○省 共感を呼びまくって最多特別賞です、おめでとう！ 特別賞：ご愁賞様（うちの班で非常に共感を呼びまし た。） やっつけ賞（やっつけ感がよかった。） 気持ちか わかるで賞（すごい共感できるから。） 早くやめま賞 （合わないんならやめた方が……） 下戸賞（まあ頑張 れ） イチオシフレーズ：「空間がない…」
B08	天と剣…言葉遊 び	6 pt 5 位 1 sp space と spade の不思議な関係。な、な、なんと、こん なところに宇宙の神秘がっつ。 お題の使い方のユニークさと、発想の妙が光ります。 下の余白にspaceとspadeを薄く大きくレイアウトするな ど視覚的に見せると、より映えたのでは。 特別賞：アイディア賞（英語ならでは）
B09	青空の向こう側 へ	29 pt 1 位 0 sp レイアウト、神!! しかもフレーズがきれいに入っているところが、ますます もって神技。 「行こう上へ」。力強くエコーしてきます。 もうグレイトのひとつ、イチオシフレーズ大賞ともど も、うおおりゃああと、首位をダントツでかさらっ て行きましたね。おめでとう!! イチオシフレーズ：「うおおりゃあああ（再現不 能）」×6
B10	舞台版 2001:A SPACE KEY Odyssey	1 pt 11 位 1 sp 台本仕立てで、まさに寸劇を見ているかのような臨場感 でした。 ホコリ除去隊なるほどね。 おねだんにもよりますが、そうとう需要がありそうな。 特別賞：新ネタ賞（今までにない台本型） イチオシフレーズ：「マテリアルハ・ナ・ンダロー ナ」×3 「NASU」
B11	君と僕の間にあるもの	4 pt 7 位 1 sp 恋すれば、遠くから見ているだけで世界全体が幸せ色。 それを理系男子くんが理屈っぽく「僕は彼女を形作って いる要素なのだ」と胸を張っちゃってところが、ほほ えましい。 特別賞：ストーカーで賞（ストーカーあぶない！） イチオシフレーズ：「僕は思わず深呼吸をしてしまう」

		6 pt	5 位	1 sp
B12	星空ノスタルジア	星を見上げたい夜は、ふるさとを思う、ちょっとせつない夜でもあり。 すべてを体言止めにすることで、さくりさくりと歯切れ良く決めているのが、いい工夫です。 夜の静けさにひたりつつ、来週の「愛」への架け橋になりそうな今週の読み納めでした。特別賞：ノスタルジア賞（きれい…。）		